

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/3)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	講師	氏名	ナガサキ ショウ 長崎 励朗
学歴	平成19年 3月 京都大学教育学部教育学科 卒業 平成21年 3月 京都大学大学院教育学研究科教育科学専攻修士課程 修了 平成24年 3月 京都大学大学院教育学研究科教育科学専攻博士課程 研究指導認定退学				
学位	平成21年 3月 教育学修士 (京都大学)				
専門分野	社会学、教育学、情報学				
専門資格					
所属学会	平成20年 日本マス・コミュニケーション学会 平成20年 日本社会教育学会 平成21年 日本ポピュラー音楽学会 平成23年 The Asian Media Information and Communication Centre (AMIC)				
受賞	平成24年 6月 日本マス・コミュニケーション学会 第5回優秀論文賞受賞				
担当授業科目	学 部 メディア研究概論、メディア研究法、メディア・リテラシー、各学年の演習、エクスターンシップ実習				
論文指導	該当なし				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	メディア・リテラシー	講義・演習・実習・実験	春・秋	約150名	
	授業の概要： 学生にパソコンを用いて実際に検索させつつ、信頼性の高い情報とは何かを考えてもらう。				
	教育活動の振り返り 教育活動の成果： 学生たちは自身の欲しい情報を的確に検索し、その真偽を推し量る力をつけることができた。少なくともgoogle検索で全て事足りるとする思考からは抜け出せたといえる。 今後の課題： 意欲の低い学生をいかにして学びへと動機づけるかが今後の課題である。				
	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 特になし。				
・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 日常生活の全てが学びの契機であり、学術的な思考を含んだ日ごろの「雑談」こそ最も教育効果の高い課外活動である。					
H26 年度研究課題	1. 青年雑誌としての『ロッキング・オン』 2. 中之島教養主義の盛衰 フェスティバルホールを中心に				
平成二十六年(2014)年度の 研究活動の概要	今年度の初めには、かねてより研究を続けていた『朝日ジャーナル』に関する論文を発表した。後述：(著書)1 この論文は『朝日ジャーナル』を歴史的資料として用いながらも、ネットワーク分析という統計的手法を用いたという点で先駆的な業績であったといえる。 その後、着手したのはアメリカのラジオ史を扱った研究書、『Radio's Civic Ambition』の翻訳であり、これは現在も作業を継続中である。なお、この作業を下敷きに書評論文「「ラジオの夢」の栄光と挫折」を執筆し、すでに雑誌に投稿済みである(現在、印刷中)。 科学研究費を頂いて 後述：(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 研究を進めている青年雑誌『ロッキング・オン』の研究も精力的に進めており、その成果は間もなく共著の中で発表する予定である。 以上のような研究活動のかたわら、本年度からは様々な社会活動にも関わるようになった。ナカノシマ大学や大阪市芸術創造館に関する活動などがそれにあたる。研究成果を一般の方に聞いて頂くことの難しさと面白さを知った一年でもあったといえよう。				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/3)

平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等	(著書) 1. 「第2部第6章『朝日ジャーナル』 桜色の若者論壇誌」、共著(当該章担当)、平成26年4月、創元社、『日本の論壇雑誌：教養メディアの盛衰』(pp.292-314)
	(論文)
	(学会報告、学会活動) 1. 日本ポピュラー音楽学会関西地区研究活動委員「平25.1から平26.12まで」
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) 書評： 1. 「教科書的正義への批判と処方箋(『大衆の幻像』の書評)」、単著、平成26年8月、『熊本日日新聞』(平成26年8月3日朝刊・第8面)
	(調査活動) (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成24年度-平成26年度 科学研究費助成事業科学研究費補助金および学術研究助成基金助成金(基盤研究B)「青年期メディアとしての雑誌における教育的機能に関する研究」(課題番号24330235, 研究代表者：京都大学・教育学研究科・准教授 佐藤卓己)研究分担者
	(学内活動) 入試委員会委員、臨床物語学研究センター会議委員
平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 社 会 に お け る 活 動	(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託) 平成26年11月～ 大阪市立芸術創造館拠点の演劇・音楽事業の事業者選定委員
	(自治体や企業における研修等の講師) 平成26年 4月 140B主催 ナカノシマ大学4月講座 クラブ・リバーサイドをもう一度、申込者対象、「昭和30年代の盛り場と音」、於：リバーサイドビル中之島 平成27年 2月 140B主催 ナカノシマ大学2月講座、申込者対象、「街から読み解く手塚治虫」、於：大阪市立科学館
平成 二 十 一 ～ 二 十 五 (2009～2013) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等	(著書) 1. 「第二部第五章 ポピュラー音楽の覇権をめぐるメディア文化政策」、共著(当該章担当)、平成24年11月、新曜社、『ソフト・パワーのメディア文化政策 国際発信力を求めて』(pp.292-314, 352p) 2. 『「つながり」の戦後文化誌 労音、そして宝塚、万博』、単著、平成25年12月、河出書房新社、224p
	(論文) 1. 「社会教育団体としての労音」、単著、平成22年6月、日本社会教育学会紀要第46号(pp.71-79) 2. 「戦後音楽運動における教養主義の変容」、単著、平成22年7月、日本マス・コミュニケーション学会、マス・コミュニケーション研究第77号(pp.129-148) 3. 「プロデュースという思想 浅野翼を中心に」、単著、平成23年4月、京都大学大学院教育学研究科紀要第57号(pp.587-600)
	(学会報告、学会活動) 口頭発表： 1. 「労音運動にみる教養的娯楽の変容」、単独、平成21年10月、2009年度日本マス・コミュニケーション学会秋季研究発表会、慶應義塾大学 2. 「プロデュースという思想 浅野翼を中心に」、単独、平成22年10月、2010年度日本マス・コミュニケーション学会秋季研究発表会、東京国際大学

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/3)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	<p>(学会報告、学会活動 つづき)</p> <p>3. “Rethinking ‘Kitsch’: a Study for Cultural Common Background”、単独、平成23年6月、The 21th Annual Conference of The Asian Media Information and Communication Centre/Taj Krishna Hotel, Hyderabad, India</p> <p>4. 「Popular Music as Soft-power」単独、平成24年7月、The 21st Annual Conference of The Asian Media Information and Communication Centre, Concorde Hotel, Shah Alam, Malaysia</p> <p>5. “Network Analysis on <i>Asahi Journal</i>”、平成25年7月、22nd AMIC Annual Conference, Melia Purosani hotel</p> <p>ポスター発表：</p> <p>1. 「キッチュとしての中間文化」、単独、平成23年1月、第四回京都大学-慶應義塾大学グローバルCOE共催シンポジウム「トランスナショナルな心・人・社会」、京都大学</p> <p>その他：</p> <p>1. 「ポピュラー音楽と社会関係資本」ワークショップ(問題提起者) 平成24年6月、2012年度日本マス・コミュニケーション学会春期大会、宮崎公立大学</p> <p>2. 平成25年 1月 日本ポピュラー音楽学会関西地区研究活動委員「平26.12まで」</p>
	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>1. 「越境する文化政策」(コロキウム企画) 共同、平成21年4月-平成22年2月、京都大学グローバルCOE「心が活きる教育のための国際的拠点」</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>平成21年 6月 歌手ペギー葉山氏へのインタビュー等(於：八重洲富士屋ホテル)</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成21年度-平成23年度 日本学術振興会特別研究員DC1研究費、「戦後音楽運動における公共性の諸相 戦後民主主義理念再考のために」研究代表者</p> <p>平成24年度-平成26年度 科学研究費助成事業科学研究費補助金および学術研究助成基金助成金(基盤研究B)「青年期メディアとしての雑誌における教育的機能に関する研究」(課題番号24330235, 研究代表者：京都大学・教育学研究科・准教授 佐藤卓己) 研究分担者</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>平成24年 4月 就職委員会副委員長「平25.3まで」 人間学研究所所員「平26.3まで」 オープンキャンパス委員「平26.3まで」</p> <p>平成25年 4月 広報誌編集委員会委員「平26.3まで」</p>
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の社会における活動	<p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成25年 1. 京都府立宇治西高等学校模擬授業、於：同校 2. 滋賀県立草津東高等学校模擬授業、於：同校</p> <p>平成25年10月 京都文教高等学校ALP「メディア=教育=洗脳？」、於：同校</p> <p>(その他)</p> <p>平成22年 9月 神戸ファッション造形大学非常勤講師(「ファッション・コミュニケーション」「ライフスタイルとメディア」)「平23.3まで」</p>